

つたが、トライアウトを経て入団したヤクルトでは1年目から35試合に出場。4年目の12年には100試合61安打、翌13年には109試合73安打と成績を伸ばし、選手会長に就任した昨14年には自己最多の83安打を放ち、打率も2割7分をマークしている。

シヨート、セカンド、サードとこなすユーティリティぶりや24歳という若さなど復活の要因は様々あるが、中日時代、二軍でも真剣に野球に取り組んでいたことは大きかったはず。真剣だからこそコーチと衝突もしたし、それがチームを引っ張るキャプテンシー（明徳義塾で全国制覇した時の主将）でもあった。

チームが優勝した今年、シヨートのポジションを移籍してきた大引啓次に奪われ、75試合で21安打、打率も1割8分に終わった。32歳の来年は文字通り正念場だ。

戦力外通告を受けた後に オールスター出場の宮地克彦

トライアウトで復活後、オールスター出場を果たしたのが宮地克彦（元ソフトバンク）だ。8年在籍した西武では02年に100試合出場を果たしリーグ優勝に貢献。日本シリーズでも3番センターで

▶▶▶ 宮地克彦 年度別成績

年度	所属	試合	安打	本塁打	打点	盗塁	三振	四球	打率
1994	西武	4	0	0	0	0	0	0	.000
1995		13	3	1	2	2	3	3	.130
1996		一軍出場なし							
1997		6	1	0	3	0	1	1	.143
1998		7	0	0	0	0	1	0	.000
1999		一軍出場なし							
2000		21	16	2	9	0	7	4	.267
2001		15	4	0	0	0	3	4	.182
2002		100	66	3	29	8	38	16	.267
2003	↓	25	10	0	6	2	12	3	.189
2004	ダイエー	93	78	3	24	1	23	15	.310
2005	ソフトバンク	125	127	3	36	1	43	29	.311
2006	↓	48	11	0	2	0	11	5	.155
通算11年		457	316	12	111	14	142	80	.275

※05年ベストナイン（外野手）

リストラの星と称された宮地克彦。中高年に希望を与えた選手だ



スタメン出場し2安打を放ったが、翌03年、右ひざの故障により出場機会が激減。戦力外通告を受けた。横浜・近鉄・ロッテの入団テストはすべて不合格。右ひざが完治していないとの風評が流れトライアウトでも獲得球団は現れなかったが、村松有人がオリックスへFA移籍したため外野手補強を余儀なくされたダイエー